

# グラフィックシンボルとしての呪符のデザイン研究

## - 道教の「呪符」造形にみる表現

### Research on the Design of Graphic Symbols

#### - Through the Expression of Taoist "Curse Talisman"

#### ■ 汪力 Li WANG

愛知県立芸術大学大学院 佐藤直樹研究室

Aichi University of the Arts

#### ■ キーワード：グラフィックデザイン 呪符 記号 造形

#### はじめに

呪符とは道教で使用される文字と図形で構成される「まじないの札」を指し、幽霊や神々を呼び寄せ、邪悪な霊を遠ざけ、人々に幸運をもたらすと信じられている。これにはさまざまなデザイン様式があるが、時代の変遷に伴い造形のルールや一貫性が失われている。

新しい呪符に求められる役割は、従来の道教で使用されてきたものと大きく異なるはずだ。例えば、インターネットやSNS に対する願望、家族やパートナーシップへの認識、VR 世界に対する要求など、これらの現代的なテーマが反映されることが期待される。なぜなら、お守りを持ったり神仏に手を合わせたりする行為は現代でも当たり前のこととして認められており、まじないの効用が無視できない存在となっているからだ。

本研究の目的は、古代から継承されてきた道教呪符の意味と造形ルールを踏まえながら、現代社会にふさわしい新しい呪符のデザインに取り組み、新たな「アイコン」の可能性を提示することだ。呪符研究の方法論は、従来の古典的な呪符の構造を詳細に調査し、その造形方法を分析することから始まる。呪符のデザインにおいては、文字や図形符、総合符の形態、構造、視覚的要素に焦点を当て、古代の文献や宗教的文書からの情報を収集する。

#### 1. 道教の呪符

##### 1.1. 呪符の歴史

道教における呪符の発展には、五つの時期があり(図1)、通常、文字の変形が主な表現形式となる。これらの文字は通常の人々には理解が難しい部首の組み合わせから構成されている。道教の呪符は長い年月をかけて発展し、文字を中心とした体系が確立され、そのパターンは進化し続けた。また、時代や地域によって呪符の文字形式が異なり、その結果、後代の人々には、これらのお守りの意味を解読することが難しく

なった。

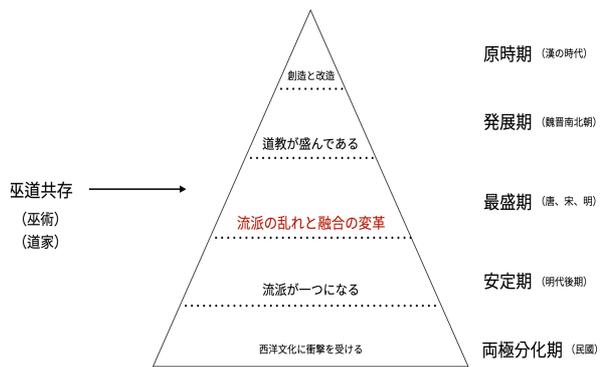


図1 道教の呪符

#### 1. 2. 呪符の構成

道教の呪符の構成は、巫術から発展したものである。道教が改造し、独自の特徴を持ったお守りを開発したのである。呪符の構成は、①図形、②装飾、③文字の三つの部分で構成されている。文字システムが完成されるにつれて、文字が符呪の中で占める割合はますます大きくなっている。

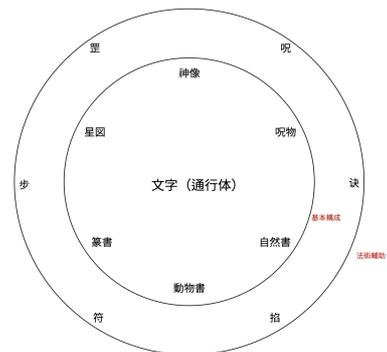


図2 呪符の構成要素

### 1. 3. 呪符の要素

図形符は、星座、雲、雷、風、雨など、天体の動きや陰陽の状態、占星術、気象、エコロジーなどに関連するものを表す、例えば、星座、雲、雷、風、雨などが含まれる。特定の呪符、例えば『元嘉十年の星符』(図3)もその一つだ。さらに、これらの図形は、宇宙の存在と万物の動きに関する意味を伝えている。この星符の上部には道教の3つの神が表わされており、中段から下段にかけては北斗七星の星座を示している。ただし、この呪符では他の図形に合わせて北斗七星の形状が変更されている場合もある。

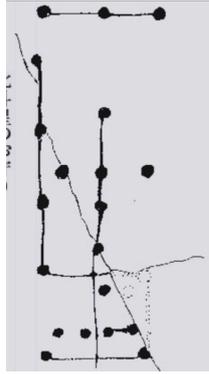


図3 元嘉十年の星符

同様に、文字符は言語のコミュニケーションを補完し、言語の記録と伝達に重要な役割を果たす文化的なツールである。呪符の進化の過程で、さまざまな漢字が関連し、八つのスタイルと六つのテキストのパターンが形成された。スタイルには、天の書(図4)、神の書、地の書、内の書、外の書、幽の書、中夏の書、異国の書などが含まれ、六つのテキストは、漢字の造字法と同様に、象形、指事、会意、形声、転注、仮借などの方法で呪符を作成するために使用された。

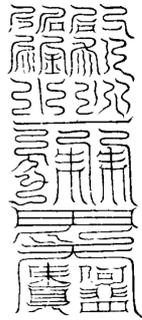


図4 天の書の符

また、総合符は、文字、法器、星図などが組み合わせられ、時には個別に使用されることもあり、お守りのようにして形成されることもある。図5は、人を呪い殺すための恐ろしい呪符である。図柄としては幽霊の姿を現しており、神将のような神の像が加わっている。呪符はさまざま組み合わせで使用され、民間信仰の変化にも適応するために変更が行われることがある。



図5 神将の符

## 2. 古典的な呪符の調査

古典的な呪符のテキストや文献を収集し、その構造、形状、配置、および使用方法について詳細に分析した。使用された歴史的背景や文脈を調査し、その目的や文化的意味を考察した。

### 2. 1. 図形符

中国の各時代の呪符を比較分析した結果、呪符は長方形、正方形、円形などさまざまな形態を持っている。しかし、最も一般的に知られている形態は基本的に長方形(図6)だ。これは主に古代の漢字の書き方と紙の形状に関連している。古代の漢字の書き方はと縦の線が中心であり、これは長方形の形状と一致している。また、古代の紙の形状は通常が長方形であり、長方形の呪符はこの紙の形状に適していた。これは古代の文化が紙の使用習慣に合わせたものと言える。さらに、長方形は携帯しやすく、ドアや窓に貼り付けるのに適している。象徴的な意味においても、古代の長方形は天地を結ぶ特別な意味があり、宇宙の力を象徴していた。



図6 長方形の呪符

### 2. 2. 古い呪符の造形方法

古代の呪符の造型方法は漢字の造字方法を参考にしたが、呪符と正字の違いを区別するため、呪符の書き手は呪符を変形させた。

呪符の中で呪文はその重要な部分であり、文字の配置、特殊な記号の追加、言語表現の調整などにより変形させることができる。この変形は呪文に神秘感を加えたり、異なる内容に適応したりするのに役立つ。また、呪符の図形記号も変形させることができ、これらの記号には通常、特定の象徴的な意味がある。これらの呪符のサイズ、比率、組み合わせを変形させることで、呪符に異なる力と意味を与えることができる。

さらに、呪符の色と素材を変形させることも重要であり、色の感受性を変えたり、異なる色の組み合わせを使用したりすることで、異なる状況に適応させたり、特定の願い事を強調したりすることができる。そして、呪符の制作素材もその効力に影響を与える要因の一つだ。例えば、紙製、布製、木製などはそれぞれ異なる目的や環境に適している。



図7 呪符の色

### 2.3. 総合符

呪符は古代から現代にかけて、その形状や使用法において進化してきた。古い呪符は主に漢字の文字方法に基づいており、文字や記号の組み合わせによって神秘的な効力を持たせていた。これらの呪符は、呪文や特殊な記号の変形を通じて、異なる目的に適応されていた。

現代の呪符は、技術の進歩や文化の変遷に伴って新しい特徴を備えている。文字や記号の変形だけでなく、デジタル技術を活用した呪符や、特殊な材料を使用した呪符も登場している。現代呪符は、古代の神秘性を保ちつつ、新たな意味や力を取り入れ、現代人のニーズに合わせて進化している。

呪符の転換は、文化や信仰の変化に密接に関連しており、人々の生活様式や価値観に合わせて柔軟に適応している。これにより、古い呪符の伝統が尊重されつつ、現代社会においても有効で意味のある存在となっている。

### 2.4. 呪符の文化

「学」(図7)は主に道教の論理・哲学にルーツを持ち、儒教の社会・道徳教育にも影響を受けている。「術」(図8)は主に巫術から派生した要素である。多くの呪符文化は、道教文化の派生物であり、道教文化は漢代に誕生し、当時の知識と文化的背景に基づいている。道教文化は「学」と「術」の二つの要素に分類できる。同時に、他の宗教の教義を吸収し、地域独自の要素と結び付け、現代の包括的な文化体系を形成してきた。



図 9 呪符の術

### 2.5. 日本への伝搬

奈良・平安時代には、中国の道教の古典や不老不死、妖怪や神への信仰、学と術などが日本に伝わっていた。これは、日本古来の政治、宗教、民間信仰に影響を与えた。平安時代、宇多天皇の寛平年間(889~898)、藤原佐々成は中国の古代道教の経典を多数収録した「日本国見在書」の編纂を依頼されている。庚申や泰山府令の道教の信仰は、同じく平安時代に日本に伝わっている。また、沖縄に本格的に呪符が伝わるのは17世紀以降で、18世紀には民間レベルまで浸透していた。また、庚申や泰山府令の道教の信仰は、平安時代に日本に伝わった。呪符の種類としては病気に関するものが最も多く、その他には出産に関するもの、男女間の愛に関するもの、護身に関するものなど、概して生活に密接に関わるまじない用がほとんどであるが、それらはどちらかという本土の呪符と共通ないしは類似している。また窪徳忠氏の教示によれば、「急急如律令」の急の字に唵を用いた例は中国になく日本の呪符の特徴のようであるが、沖縄の呪符には唵の字が用いられている。



図 10 護符

### 3. 新しい呪符

従来の呪符は、「土着的信仰社会」における人々のニーズを反映していたが、現代に適した呪符とは、今日の情報社会における人々のニーズを考慮する必要がある。

#### 3.1. 呪符の分類

呪符の分類について、以下の通り12のカテゴリーに分類した。1から6までが「身体」、「財産」、「コミュニケーション」、「家庭関係」、「恋愛」、「仕事」を表し、7から12までが「結婚」、「死と再生」、「教育や宗教」、「社会事業」、「ネットワーク」、「潜在的意識」を示している。

この分類は、個人の人生旅路を象徴し、経験と密接に関連している。1から6のカテゴリーは個人の旅路を始め、様々な学びを経て、7から12の社会的段階に進む段階を表している。それぞれのカテゴリーは相互に密接に関連し、絶えず進化している。

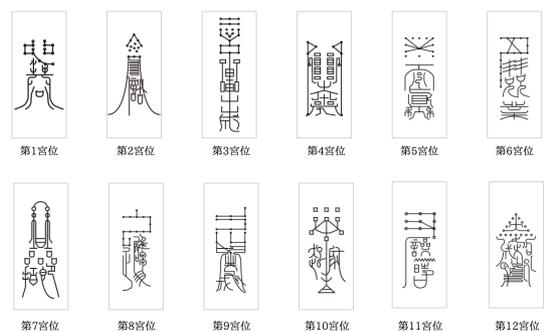


図 11 12 宮位呪符図

### 3.2. 呪符の構造ルール

呪符の形態は、通常長方形の紙に、線による表現で使われる。呪符のデザインは、「まじない」の内容によって多様だが、時間とともに、その造形の規則ルや一貫性は徐々に失われてきている。

呪符の構造は、三つの部分から成り立っている。符頭、呪言、暗号である。人体に例えると、符頭は頭部に相当し、呪言は心臓であり、呪符の中心的な機能を担っている。また、暗号は肝臓と胆のようなものであり、暗号のない呪符は鍵のない扉のようで、誰もが容易にアクセスできる。したがって、暗号は呪符において極めて重要な要素を占めていると言える。

新しい価値観に基づいた呪符の造形と試作例について説明する。図 9 は、VR 世界で幸福に暮らすという意味の呪符である。符頭は、名声だ。呪言は、非現実の世界で本当の充実感を感じることは可能だ、という象徴になる。暗号は、西洋のナルシスの神話に基づいた水面を表している。

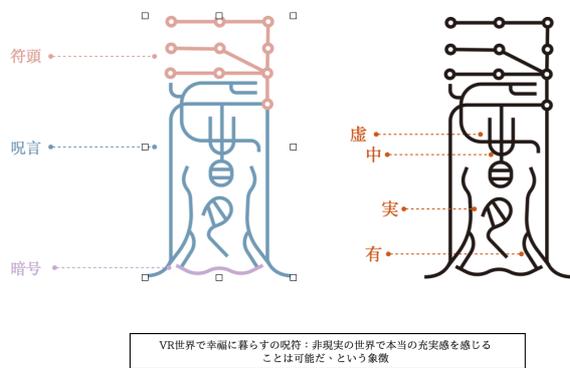


図 12 VR 世界呪符

## 4. 作品制作

### 4.1. 年表

呪符に関する情報を収集し、収集した情報の文献調査や実地調査を行った。呪符の発展過程、文献と現状との関連で年表として制作する。

### 4.2. 可視化図

呪符に基づく情報可視化図を作成しました。この図は、既存の呪符と新しい呪符の二つの部分に分かれています。内容は、古い呪符から新しい呪符への進化過程を詳細に探り、呪符の起源、意味、形状、そして新しい呪符の分類や法則に焦点を当てている。

これは、土着の信仰社会から普遍的な情報社会へのニーズの変遷を明らかにし、社会の文化的変化と技術革新の相互作用についての理解を深めることを目的としている。

### 4.3. 電子呪符

12 種類のそれぞれの符頭の下に異なる呪言が付き、さらにその下に暗号が加わることで、組み合わせによって大量の呪符を制作することが可能となる。

最終的には、こうした呪符のグラフィックデータをダウンロードして、自由に使用することができるオープンリソースとして

活用することを想定する。

電子呪符プラットフォームで、以下の 3 つのステップ独自の呪符が作成可能となる。①符頭の選択：呪符のテーマを選んで、それを呪符の符頭とする。②呪言の選択：具体的な願い事を選んで、それを呪言とする。③暗号の選択：最後に、呪符のシンボル、絵画、また署名を自由に選んで、お札を個性的に仕上げる。暗号は各自で自由に作成することも可能だ。作成が完了したら、呪符をデバイスダウンロードして保存することができる。



図 13 スマホのスクリーン背景図

## 5. おわりに

将来の展望として、呪符の造形特性を明らかにし、データペースとして整理する。時代の変遷や同一時代の異なる地域や環境における文字や記号の変化に関する研究を行い、変化の規則を分析及び抽出し、これらの規則に基づいて現代の呪符を制作する手がかりを見つけ出す。新しい呪符を実際の使用状況で評価し、フィードバックを収集する。必要に応じて呪符のデザインを改善し、その効果を最適化する。呪符の実用性や効果を向上させるための修正が可能である。

本研究では、道教の呪符を研究することで、現代のグラフィックシンボルにおける文字のデザイン表現を探っている。そのために呪符の歴史と様々な造型について考察した。現代社会にふさわしい新しい呪符を開発した。研究の成果は、呪符デザインの進化やその実用性向上に寄与するものであり、今後ますます多様化する社会において、新たな可能性を開拓する一助となることを期待している。

## 参考文献

- ・ 高國煥著、『中国巫術総史』、<鳳凰出版> (2003/2/1)
- ・ 李一龍著、『正統道藏』、<天津古書出版> (1998/12/3)
- ・ 劉曉明著、『中国符呪文化』、<白華出版> (2005/5/1)
- ・ 山里純一著、『沖縄の魔除けとまじない』、<第一書房出版> (1997/2/1)